

一般社団法人名古屋東法人会 主催

タケ海舟氏による 歴史講演会

入場無料
先着80名様

令和6年度大河ドラマ 『光る君へ』の見どころを探る！

～紫式部と藤原道長、歴史と文学、二つの世界から眺める平安王朝～

令和6年3月26日(火) 開演15時30分

(開場15時00分、終了予定17時00分)

中産連ビル (名古屋市東区白壁町三丁目12番13号)

◆申込方法 裏面の参加申込書にご記入のうえ、FAX 052-939-2527までお申込みください

講師 歴史人:タケ海舟(小川剛史氏)

NHK大河ドラマ第63作目となる、『光る君へ』

その舞台は、王朝時代と呼ばれた平安中期、歴史の世界では天皇の母方の実家(外戚)である藤原氏が摂政関白として、権勢を振るった摂関政治の最盛期に該当します。

一方で、文学の世界から見ますと、『蜻蛉日記』『枕草子』『更級日記』等の女流文学の世界が花開いた時期でもありました。

そして、この時代を代表する女流作家こそが、不朽の名作で知られる『源氏物語』を書いた紫式部その人でした。



紫式部という人物の名前は、あまねく知られていると思いますが、史実における彼女の生涯については、殆ど知られていないのが正直な所です。

生年・没年、どちらも諸説ある式部ですが、宮仕えをする前に結婚・出産、そして夫との死別を経験、シングルマザーとなってからは、『源氏物語』の執筆を始めたのですが、そんな彼女の前に、運命の『光る君』こと藤原道長が現れるのです。

権力者道長の支援を受けて、式部は執筆活動が続けることになるのですが、同時に彼の要請を受け、その娘彰子に仕える女房として宮仕え、即ちキャリアウーマンの道を歩んだのです。

ドラマがスタートして数回経過した時点での講演となりますが、遺された史料が決して多くない中で、式部は我々の前にどのような姿を見せてくれるのでしょうか？

そして、気になる道長との関係の行方はどうなるのか？…

皆様の関心を少しでも刺激出来る様なお話をさせて頂きたいと思います。

当日は是非お楽しみに！

お問合せ先：一般社団法人名古屋東法人会 事務局

TEL 052-939-2520 FAX 052-939-2527



